

県民の森 植物紹介

⑤7 ハウチワカエデ (ムクロジ科)

紅葉のとき、赤や黄色、オレンジ色と様々な美しい色に染まることで有名です。切れ込みが浅く、直径7～12 cmと最も大きな葉の形が、天狗の持つ鳥の羽の団扇に似ていることから「羽団扇楓」と名付けられました。ちなみに「カエデ」は、葉の形がカエルの手に似ていることに由来します。

県民の森では、サクラの花が満開の頃、ちょうどハウチワカエデも紅色の花を咲かせます。芽吹いたばかりの新葉の淡い緑との色合いがとても鮮やかです。若い果実も同じ紅色。カエデの仲間はプロペラのような翼がついて種を風に運んでもらいます。

冬芽は、最初は芽鱗という皮にすべて包まれています。ほどなく割れて、厳冬期は白い毛が目立つようになります。毛皮を着て、厳しい寒さから春に芽吹く葉や花の芽を守っているのです。

四季を通じて美しさを愛でることの出来るハウチワカエデ。園内随所で見られます。



冬芽 2022 年 1 月 18 日



花 2021 年 5 月 8 日



実 2021 年 6 月 16 日



紅葉 2020 年 10 月 30 日